

ごあいさつ

いよいよ 三和精鋼の新本社工場が完成いたしました。待ちに待った役員社員の長年の夢が、やっと実現する喜びに一同、感激して震えております。

まずは お願いした徹底した経済設計に答えて頂いた、飛沢構造設計様、早めの材料手配と 大変お忙しい中で鉄骨構造の早期施工にご協力いただいた興栄建設様、厳しい納期の条件に何とか滑り込むべく頑張っていたいただいた三義様には厚く御礼を申し上げます。 本当にご協力に感謝申し上げます。

またこの工場建設に限らず、三和精鋼を日頃ご愛顧あるいはご支援頂いているお客様、仕入先様、協力会社の皆様、加工受託企業の皆様、あるいは機械メーカーの皆様の皆様のおかげであることを再認識し、その意味でも厚く、厚く重ねて御礼を申し上げるところです。

三和精鋼は、昭和56年、ここ、にかほ市 旧金浦町 において創業致しました。これまで、本社としていた 金浦メカニクス協同組合に移転したのが平成3年。その後、大変厳しい時期も何とか乗り越え

つつ 平成 14 年に協同組合内に第二工場を開設 平成 17 年から、やはり協同組合内に第三工場を開設いたしました。その後のリーマンショックは 三和精鋼の経営にも大きな影響を与え厳しい状況となりましたが、何とか立ち直り、回復後は総じて順調な業績の回復を図って今日に至っております。ただ、一つの文章ですらすらと、あまりにあっさりとしすぎている感があり、実際には、何度かの苦しい状況に置きまして、諸先輩の血のにじむようなご苦勞があったことはよくよく承知しており、諸先輩にはこの場を借りて、本当の感謝の意をお伝えしたいと思います。

これらの発展過程は三和精鋼の 顧客の要望に応じた加工 そのものであり、最初は鉄鋼製品 いわゆる鉄の在庫、切断機能のみのスタートだったわけですが、その後フライス加工を行うようになり 研磨も行うように進化してまいりました。一方では素材面でも ステンレス、アルミも主要製品として扱うまでに拡大してまいりました。 一品一葉 お客様のご要望に応じて加工するスタイルでここまで進んで来たのでございます。

しかし、この発展過程がゆえに、工場が基本的に加工機能別の配置と

なり、同じ加工の現場に各素材が流れることとなり、また三和精鋼工場内5拠点を結ぶモノの流れも起こることで、1つの加工品の工場内の導線が長く複雑化すると共に 効率の悪化が顕著となってきたのが最近の三和精鋼の実態でございました。 また工場全体の荷動き、機械の稼働状況はいちおう システムにて管理しているものの全般的な把握が難しく、いわゆる「見える化」「可視化」の必要性を痛感しておりました。

三和精鋼の新工場は これらの諸問題を一挙に解決し、徹底した効率化を狙うと同時に、数ものの価格競争にも勝てる現場づくりを目標として参ります。規模の拡大そのものは目的ではなく、いずれ訪れるであろう厳しい時代のコスト競争に勝ち抜くことを目的としたものであることをこの場をお借りして特にお伝えしたいと考えております。

工場をご覧になった方はお分かりになったと思いますが、もともと私共のやっている加工は誠にシンプルであり、今まで場所が自由にならないために、いかに苦勞していたのか、いかに物事が複雑化されていたかを感じております。

話は変わりますが、新工場の立地につきましては、本当に私自身も相当悩みました。県の内外には確固たる産業政策を軸に、モノづくり企業の招致に熱心な自治体もあります。しかしこの地元 にかほ における、お客様、従業員・その家族、そして、グループ会社、協力会社 さらにその家族がおられること、を思い浮かべ、現在のきちんとした金属材料の品質を守るためには、何としてもこの にかほ市でものづくりをしたい、と判断を致しました。

新工場は出来たばかりで、今後いろいろな課題も出てくることと思います。地方自治体の皆様にも、何卒 地元のモノづくりの企業のご支援を賜りますよう、よろしく願いを申し上げます。

さて、私は これからの世界で モノづくり、いや機械産業は？ いや金属材料はいったいどうなるのか そんなことに思いを致すときに、割と楽観的な将来像を思い浮かべております。 1つは、AIにしても、IoTにしても基本的には 半導体による演算あるいはその結果の記録、あるいは人間の選択手法の学習の記録の集積・総合化に過ぎないということです。これから先どんなに高速でかつ大容量の能力を持つようになって、基本的な変化は無いはず。 とすれば、半導体なりそれを表示する液晶なり は 姿を変えて必ず生き

残るのではないかと考えるわけです。これからどんどん進化する AI、IoTを支えるのは やはりどんどん進化する半導体あるいはその進化形の代わりの物であり続けるのではないかと考える、いわゆる私流の仮説であります。

たとえばアップル、アマゾン、グーグル、マイクロソフトがみなそれぞれの株価総額を 1 兆ドルから 2 兆ドルにする時が来たとしても、たとえば電気自動車が自動運転でどこへでも行ける時代が来たとしても、たとえば、介護が、人間の気持ちを大切にすべての要求を満たしてくれるロボットによって行われる時代が来たとしても、たとえば日本が自国の防衛を自国で行うようになり、そのための高度化された防衛装備を自力で開発する時代が来ても、それを支えるツールには半導体や液晶が不可欠でなおかつ、それにはどんどん進化が求められるはず。という仮説であります。

楽観的な将来像のもう一つは、この半導体や液晶が どんどん進化し続けるとすれば、私としてはそこに世界における日本の役割があるのではないかと 期待を込めている点です。 たとえば半導体や液晶そのものが別の国で作られる時代がきても、その製造装置は、その高い歩留りと正確な作動により 日本の方が一番評価されるのでは

ないかという期待。 もちろんそこには日本の機械メーカー、開発会社、設計会社、エンジニアリング会社の皆さんの 他のメーカーとの凄まじい競争があるものと考えますが、それに勝ち抜く力を信じております。

私共三和精鋼は、そのマーケットにおいて百分の1か、千分の1くらいの、極めて底辺の役割しか果たせないかもしれませんが、信用できる、安心できる、確実な材料を、ていねいに加工、仕上げして、梱包することで部品加工、あるいは機械製作をするお客様に供給したいと願っております

金属材料については、当然ながらいつもミルシートにある検査結果は1つ1つ違います。天然の材料、鉄鉱石、石炭、あるいはスクラップを使う製鉄所においては 当然全く同じもの、製品は一つもありません。 鉄、ステンレス、アルミのそれぞれのメーカー様には出荷前に厳しいチェックをしていただくことで、一定の基準以内に入っていることを保証頂いております。私どもはその裏打ちされた品質の信用を背景に加工材料を販売させていただいていることを改めて再認識し、感謝を申し上げます。 この材料の基本的な信

用が、日本のモノづくりの基礎となっていることを改めて確認する所です。

さて、私どもの工場では この金属材料の 切断、フライス、研磨、バリ取り、それぞれの工程はある意味その日の工場の湿度、温度も関連して、それぞれの材料の特徴次第で 調整、微調整を繰り返して行っております。その意味で非常に人間の感性に頼る部分があることは是非とも申し上げておかなければならないことであります。

加工時の熱の影響を受けて、材料が部分的に膨張し、そる、曲がる、伸びる これが私共の各素材の切断、フライス部門の 日々の戦いの相手です。今後はより一層、これらについての 知見、経験、ノウハウをさらにデータ化して積み重ね、フライスのプロを自負できるような三和精鋼にしていく志を持っています。

遠い将来これが自動化される、あるいはロボットが加工する そんな時代がくるのかどうか、三和精鋼の社内でもよく話題に出る話ではありますが、生の金属材料の事情、私どもの一品一葉の受注形態を考えますと、たとえその時代が来るにしても、たぶんかなり最後の順

番になるのではないか」という結論です。ここまでロボット化する時代には「世の中がロボットだらけになった後ではないかと考えております。

三和精鋼は現在月間 20 万個内外の加工品を出荷しておりますが、現状 社内検査の不合格を合わせた不良の発生はおおむね 0.1%以下を保っております。しかし 今後はさらに厳しく品質管理を強めることでこれを 0.05%以下にすべく工程ごとの検査の強化等に取り組んでまいります。

また、私共がお客様のご評価を頂いていると自負している「丁寧な仕上がり」「丁寧なバリ取り」「丁寧な梱包」については「たとえ新工場に移動しても必ず水準を維持することを、社員全員とともにここに宣言させていただきます。

私共が「にかほ」の地にこの新工場を作ることを決断した 1 つの要因が、三和精鋼の社員とその家族であることは「最初に申し上げた通りです。「三和精鋼は従業員が穏やかで健康的な生活を営み、三和精鋼の社員であることにプライドを持ち、三和精鋼で働いてよかったと「そう思える会社でありたい。」という文章は「毎朝社員達が、

三和精鋼の経営理念として読み上げる文章の1つですが、私はこれを心の底から願っております。 福利厚生にしても一足飛びに大企業の水準にはできませんが、フットサルやバレーボールのクラブ活動、社員旅行や今年から始めた運動会、を通して、社員全員が同じ目的に向かって邁進できる、健康な心と体を保てるよう、活動を続けていく所存でございます。

一品一葉の受注形態がゆえに、三和精鋼は、社員の高いモチベーションと、集中力・持続力の維持が、非常に大切なテーマでそのためには、社員の健康的な生活があつてこそ と信じております。

現在私共の工場では 9 人のベトナム人の実習生が、フライス技術を学びながら仕事をしています。サッカーチームに置きましても、そのテクニックは別として、若さとやる気はなかなかのもので、三和精鋼にとっても大変重要な 若い力 といえます。 今後とも、国内の採用状況と見比べながら必要に応じて 実習生は採用し続ける方針です。

またもう一つの大切なことが、協力会社の皆さんの存在であり、今後とも三和精鋼の外注部門を支えて頂く皆様とは 益々連携を深め、意思疎通を深めたうえで、より高い技術の蓄積と、効率向上を図って

ウインウインの関係を高めていく所存ですので何卒、よろしくお願いを申し上げます。

三和精鋼の、新工場、建物は立ちましたが、真価が問われるのはここからです。新工場完成のお祝いはここまで、役員、社員一同、気を引き締めて来週、 いや 本日からの業務に邁進し、より強い三和精鋼の構築に努めなければなりません。決して安易な道ではありませんが、今後もあらゆることに挑戦し、結果を出していく会社になりたいと強く願っております。皆様、今後ともご支援、ご指導を頂きますよう、お願いを致します。

平成 30 年 11 月 9 日

三和精鋼株式会社 代表取締役社長 眞部彰彦